

# 沼田町が切り開かれてから120年



**本** 町に開拓の第一歩が印されたのは明治27年（1894年）です。

沼田町の実際の開墾事業は沼田喜三郎が設立した開墾会社が行いました。名称は開墾委託株式会社雨竜農場でしたが、一般には雨竜本願寺農場と呼ばれていました。同社は明治27年設立、本格的開墾事業は翌28年からでした。喜三郎はその前年に郷里の富山県西砺波郡から18戸の移住勧誘に成功し、同年4月20日、仁多志別（現在の北竜第1）に到着し、拝み小屋を建てて融雪を待ちました。

そして、達布、原野地区（現在の沼田第1〜第4）及び仁多志別において開墾の第一歩を踏み出しました。この年（明治27年）が沼田町の開基で、行政的にも当時雨竜村の区域に属し、戸長役場がまだ雨竜沼に設置されていなかったため、役場事務は新十津川の管轄となっていました。

（引用：沼田町百年史より）

**開** 拓の祖、沼田喜三郎翁が沼田町に開拓の礎を入れてから、本年度120年の節目を迎え、10月26日（日）、町民会館で記念式典を開催いたしました。

式典では金平町長が「脈々と続く故郷を思う情熱を未来につなげ、人口減少や高齢化などの試練を乗り越えて、元気で豊かなまちづくりに取り組んでいきたい。」と挨拶しました。

また、これまで各分野で功績のあった、個人や団体に対して感謝状が贈られ、沼田小学校6年生の伊藤寛人君と、久本夏海さんが町民憲章を読み上げました。

母村である小矢部市からは桜井市長、石田議長にも出席いただき、沼田町に対して記念品として高岡漆器の螺鈿細工を贈呈していただきました。

最後に小中学校の全児童生徒が「ピリブ」を合唱し、式典に華を添え会場は笑顔と拍手につつまれました。



▲式辞を述べる金平町長



▲感謝状贈呈の様子



▲永年居住功労者表彰の様子



▲小矢部市からの記念品贈呈



▲町民憲章を朗唱する伊藤君（右）と久本さん



▲小中学生による「ピリブ」合唱の様子